

2015年6月5日
株式会社東陽テクニカ

**無線 LAN アクセスポイント/ネットワークの
品質性能測定ソリューションを販売開始**
～単一のテストアプリケーションで総合評価できる唯一の試験機～
“Interop Tokyo 2015”に出展

株式会社東陽テクニカ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：五味 勝、以下 東陽テクニカ）は、通信・IT 関連測定器のリーディングカンパニーである米国 Spirent Communications 社が開発・製造するモバイルコアノードテスト「Spirent Landslide」に、新たに無線 LAN 測定機能を追加する「Spirent Landslide Wi-Fi UE Emulation テストアプリケーション」および「Wi-Fi RF NIC アクセサリキット」の販売を6月8日より開始いたします。

「Spirent Landslide」と今回販売する専用アプリケーションおよび NIC アクセサリキットを使用することにより、通信事業者、無線 LAN 機器製造会社、無線 LAN ネットワーク構築事業者は、無線 LAN アクセスポイント/ネットワークの品質性能を可視化し、エンドユーザの満足度を向上することができます。



モバイルコアノードテスト「Spirent Landslide」

【製品概要】

「Spirent Landslide」は、LTE、3G、WiMAX モバイルネットワーク内で使用されているモバイルコアノード^{※1}の負荷試験機です。多数の携帯端末を擬似して負荷を掛けることで、モバイルコアノードおよびモバイルネットワークの品質・性能を評価できるため、国内および海外で幅広く使われています。国内においては、2006年から東陽テクニカが独占的に販売しております。

この度、「Spirent Landslide」の専用アプリケーションおよび専用ネットワークインターフェースカードの販売を開始し、無線 LAN アクセスポイント（以下 AP）やネットワークの品質性能測定に対応いたします。多数の無線 LAN 端末を擬似し負荷を掛けることで、キャパシティ、通信速度、遅延、音声品質など様々な観点から測定が可能になります。

無線 LAN ネットワークでは多数のユーザが接続しようとする、接続できないユーザが発生する、通信が遅くなるといったトラブルが多く発生しています。また、電波は目に見えないため、トラブルの原因が端末と AP 間の無線区間にあるのか、それともネットワーク側にあるのかの切り分けが非常に難しいとされています。また、無線 LAN の利用者は日々増加しており、さらに、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、公衆無線 LAN 環境の充実に求められているなど、無線 LAN の通信インフラとしての重要性が増しています。

「Spirent Landslide」で試験を行うことで、対象となる AP および背後のネットワークには最大何人までのユーザが接続できるのか、またその時の通信速度はどれぐらいを達成できるのかなどを可視化することができます。また、測定項目が豊富に用意されているため、想定よりも性能が出なかった場合に、その原因が無線区間にあるのか、それとも有線区間にあるのかを容易に特定することも可能です。「Spirent Landslide」は単一のテストアプリケーションでこのような総合評価ができる唯一の試験機です。

【製品の主な特長】

「Wi-Fi RF NIC」を「Spirent Landslide」に搭載し、無線 LAN AP と同軸ケーブルを繋ぐかアンテナ経由で電波放射することで、無線 LAN AP と接続が可能です。「Wi-Fi UE Emulation テストアプリケーション」を使って無線 LAN 接続シーケンス、認証・アドレス取得、アプリケーショントラフィック印加をシームレスに実施することで、AP 単体の性能はもちろん、バックエンドのサーバ類も含めた無線 LAN ネットワークシステム全体の性能、QoS/QoE^{※2}を測定します。また、認証サーバや DHCP サーバ、モバイルコアノードの疑似も可能なため、測定に必要なネットワーク構成をハードウェア 1 台で実現できます。

< Wi-Fi RF NIC ラインナップ >

L-NIC-51-ACC: IEEE 802.11ac 200 端末疑似

L-NIC-53-ACC: IEEE 802.11a/b/g/n 600 端末疑似

- IEEE 802.11a/b/g/n/ac、最大 3x3 MIMO に対応
- 疑似端末に独立した MAC 制御が可能
- 無線 LAN フレームキャプチャ対応
- 認証方式として WPA2 Personal、WPA2 Enterprise に対応
- 豊富なアプリケーションデータトラフィック疑似

【販売価格/販売目標】

Wi-Fi RF NIC: 3,229,000 円 (税別)

Wi-Fi UE Emulation テストアプリケーション: 10,700,000 円～ (税別)

初年度製品販売目標: 各 10 台

※1 携帯電話事業者のネットワークで使用されている通信用機器

※2 サービス利用者の体感上の品質・経験

【Interop Tokyo 2015 に出展】

東陽テクニカでは、2015年6月10日から千葉県幕張メッセにて開催される最先端 ICT テクノロジーイベント“Interop Tokyo 2015”に、「Spirent Landslide」を<4Z04 ブース>で出展いたします。

東陽テクニカは、今後も通信サービスを提供する通信事業者やサービスプロバイダーおよび通信機器製造業者向け負荷測定器の提供を通じ、通信サービスの高速化と品質の向上に貢献してまいります。

<Spirent Communications 社について>

Spirent Communications 社（本社：米国カリフォルニア州）は、IT・通信業で用いられる最新の技術、インフラストラクチャ、アプリケーションを評価するための先進的な測定器、測定手法を開発・提供しています。研究開発ラボおよび通信事業者、通信機器製造会社、一般企業の IT 部門など全世界で幅広く使用され、リーディングカンパニーとして長年通信事業の品質向上に貢献しています。同社のソリューションによって 100G イーサネット、LTE/無線 LAN/衛星通信、NFV/クラウド、IoT/M2M、セキュリティなど、IT・通信に関わるあらゆる観点での性能・品質確認が可能になります。

東陽テクニカは同社の国内における総代理店です。

<株式会社東陽テクニカについて>

東陽テクニカは、昭和 28 年の設立より「技術と情報」をキーワードに日本の技術発展に寄与することを使命として、主として最先端の「測るツール」を欧米の電子計測器メーカーより輸入し、日本の研究・開発者に提供してきました。さらに、「電子技術センター」における修理、校正、技術サポートや自社製品の開発、「テクノロジーインターフェースセンター」で行うお客様向けの各種セミナー、トレーニングなどの取組みは、400 名を超える全従業員の 8 割を占めるエンジニアの技術力に裏付けられています。東陽テクニカはこれからも「“はかる”技術で未来を創る」のスローガンのもと、「テクノロジーインターフェース」の使命を果たすべく努力してまいります。

東陽テクニカ Web サイト：<http://www.toyo.co.jp/>

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ 情報通信システム営業部

TEL：03-3245-1250（直通） E-mail：landslide@toyo.co.jp

Landslide 製品サイト：<http://www.toyo.co.jp/spirent/landslide/>

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。